

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
ひまわり近江堂		令和8年4月28日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	100%	0%	ほうれいさだ 法令で定められているスペースを確保しています。大勢でボール遊びなどときには、静かに過ごす子どもと部屋を分け、スペースを確保しています。	
	2	100%	0%	ほうれいさだ 法令で定められている配置数に加え、子ども1名に対して、職員が1名つけられるように努力し、手厚い支援を心がけています。	
	3	80%	20%	用途に応じてカーテンで仕切って 刺激を減らしたり、内装をシンプルにしています。事業所内外にスロープや手すりを設置し、トイレを広く設計する等、バリアフリー化を図っています。お子さんの状態に応じて、安全に利用できるように配慮しています。	クールダウンできるような環境調整を行なっていただけたいと思います
	4	100%	0%	日々の清掃やおもちゃ等の消毒を行い、環境整備を行っています。	
	5	100%	0%	状況に応じて部屋の利用は可能としています。	
業務改善	6	100%	0%	個別支援計画書の作成及び、ケース会議、非常勤職員を含めたミーティング等で子どもたちの様子を共有しています。ミーティングに参加できない場合やミーティング以外の機会にも回覧などで意見を求めています。	
	7	100%	0%	保護者の方への満足度調査アンケートを実施し、業務改善につなげています。	
	8	100%	0%	毎月1回、職員、非常勤職員でのミーティングを設け、業務改善や子どもたちの状況について自由に意見交換を行っています。	意見を出しづらい場面もあるため、全員が発言しやすい環境づくりに努めています。
	9	25%	75%		現在は、利用者・事業所の二者評価で業務改善を行っており、第三者による外部評価については、実施していません。今後必要に応じて実施を検討していきます
	10	100%	0%	外部機関での研修に職員が積極的に参加できるよう体制を整えています。月に1度、施設内での内部研修を実施、常勤・非常勤職員が参加できるよう取り組んでいます	
	11	100%	0%	ホームページに支援プログラムを公表しています。	
	12	100%	0%	アセスメントを行う際、聞き取りと必要に応じて身辺自立スキル、学習スキル、衛生菌、行動管理、地域社会生活の領域に分けたアセスメントツールを使用し行うようになっています。聞き取りに関しては、保護者の方と必要に応じての面談と6ヶ月に1度の定例会が実施されています。また、前編内容や日々の	
	13	100%	0%	各職員が持っている子どもに関する情報や観察結果を共有しています。このことにより、異なる視点や意見が反映され、多角的な支援につなげています。	
	14	100%	0%	毎月1回のミーティングで個別支援計画の支援内容や目標を伝えています。また、事務所に個別支援計画書を確認できるようにしています。	
	15	100%	0%	保護者の方や関係機関からいただいた情報と日々の活動などから状況を把握するよう努めています。	現在、インフォーマルなアセスメントツールの使用はありませんが、今後検討していきたいです。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	「児童発達支援サービスガイドライン」に則した「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」を踏まえて、子どもに適切な支援の優先順位をつけて具体的な支援内容を設定しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	指導員・介護福祉士・保育士等がそれぞれの立場・専門性を活かし、活動プログラムの立案を行っています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	工作・クッキング・買い物・感覚遊び等、毎月予定を組み、季節感を出したり、子どものリクエストに答えるなど、プログラムが固定化しないよう心がけています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	長期目標・短期目標を設定する中に、子どもの状況に応じた、個別活動と集団活動を適宜組み合わせています	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	75%	25%	支援開始前に職員間での打ち合わせを実施し、情報の共有・支援の方向性等を話し合っています。	非常勤職員ともっとコミュニケーションをとるべきとの意見がありましたので、より積極的にコミュニケーションをとっていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	支援終了後に職員間で1日の振り返りを行い、情報の共有、支援の方向性を話し合っています。また、日報を作成し、その日の連絡事項を記入し、休みの職員との情報を共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	毎回、実施記録を取り、保護者の方との連絡ツールにもさせて頂いております。見返すことにより、支援の検証・改善に繋がっています	日々の記録が、子どもたちの今後の支援方針や個別支援計画の立案の際の手立てとなるように工夫していきたいと思えます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	保護者の方と必要に応じての面談と6ヶ月に1度の定期的な面談を行っています。また、日々の子ども達の様子からも課題を考え、個別支援計画を作成させていただいています	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	サービス担当者会議の場には、管理者・保育士等の専門性を持った職員がケースに応じて必ず出席しています	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	必要に応じて、各関係機関との連携を行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	幼稚園や学校との情報共有を行っています。目標や課題の共有・アセスメント結果の共有等、様々な形で連携できるよう、保護者の方の協力の元、実施しています	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	当施設の利用開始年齢やケース内容などを鑑み、必要に応じて連携させていただいております。現状としては、就学前に通所していた公的機関との連携が中心になっております。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	20%	80%	公的専門機関の研修に参加したり、助言を頂くなど、連携させていただいております。	地域の児童発達支援センター主催の研修にも機会があれば参加していきたいと考えております。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0%	100%		現在、交流は行っていません。保護者の方の中には、交流を望まない意見もあり、心情を汲み取りながら、対応していきたいと思っています	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	日々の活動記録は連絡ノートとして、また、日々の送迎時や必要な時は電話をかけ、保護者の方との情報共有をおこなっています。		



	53	<p>どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。</p>	80%	20%		<p>現在、契約の際に、保護者の方には説明をしますが、身体拘束を必要とするケースが無いので、計画に記載はしていません。必要がある場合は随時対応して職員、保護者が何度も話し合い、内容を決定し、了解を得た上で、計画書に記載します。その後も状態を把握し、内容を更新していく事としています。</p>
--	----	---	-----	-----	--	---